

2009 35012 B

厚生労働科学研究費補助金

こころの健康科学研究事業

精神疾患に合併する睡眠障害の診断・治療の実態把握と
睡眠医療の適正化に関する研究

平成19年度～平成21年度 総合研究報告書

研究代表者 三島 和夫

平成22(2010)年 3月

目 次

I. 総合研究報告

- 精神疾患に合併する睡眠障害の診断・治療の実態把握と睡眠医療の
適正化に関する研究 ----- 5
三島和夫

II. 分担総合研究報告

1. 日本における向精神薬処方の方方実態とその背景因子 ----- 41
三島和夫
2. 統合失調症及び気分障害に合併する睡眠呼吸障害のスクリーニング及び
危険因子の評価 ----- 103
山田尚登
3. うつ病および統合失調症における睡眠時無呼吸症候群との関連 ----- 117
内村直尚
4. 児童精神疾患に合併する睡眠障害の実態評価と対処課題の抽出 ----- 121
亀井雄一
5. 日本における不眠症の罹患及び治療の実態に関する調査 ----- 131
兼板佳孝
6. 不安障害・うつ病態における睡眠マネジメントの意義について ----- 157
井上雄一
7. うつ病と不眠および睡眠習慣に関する研究 ----- 197
内山 真
8. 気分障害に対する時間療法の汎用化と効果維持スキルの開発 ----- 219
清水徹男

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

IV. 研究成果の刊行物・別刷

I . 総合研究報告

精神疾患に合併する睡眠障害の診断・治療の実態把握と睡眠医療の適正化に関する研究

主任研究者 三島和夫¹

分担研究者 井上雄一²、内村直尚³、内山 真⁴、清水徹男⁵、山田尚登⁶、兼板佳孝⁷、
亀井雄一⁸

1. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部
2. 東京医科大学／神経研究所附属睡眠学センター研究部
3. 久留米大学医学部精神医学講座
4. 日本大学医学部精神医学講座
5. 秋田大学医学部精神科学講座
6. 滋賀医科大学精神医学講座
7. 日本大学医学部公衆衛生学教室
8. 国立国際医療センター国府台病院精神科

研究要旨 睡眠障害は単なる精神症状の一つではなく、精神疾患の前駆症状であり、リスク要因であり、また深刻な残遺症状となって患者の生活機能を障害する深刻な併存症である。本研究では精神疾患に合併する睡眠障害の実態と治療内容の妥当性を検証し、今後改善すべき課題を抽出することを目的とした。睡眠障害の適切な診断と対処が精神医療に資する効果とその機序を解明し、得られた成果をもとに精神科診療における実効性の高い睡眠医療ガイドラインと応用指針の作成をめざした。【研究方法】大型健保団体レセプトデータの経年調査、鳥取県大山町でのコホート調査、層化3段無作為抽出法による一般成人調査、厚生労働省保健福祉動向調査等の複数の疫学調査データを用いて、国内における気分障害と睡眠障害の併存率、受療動向、対処行動、長期転帰の実態と問題点を検証した。統合失調症、気分障害、児童精神疾患、パニック障害等の精神疾患に併存する睡眠障害の有病率、臨床特徴、病態生理、治療のあり方に関する多施設共同調査、病態生理研究、治療介入研究を行った。【研究結果・考察】日本の一般人口における睡眠障害と精神疾患の併存実態、受療実態からは、地域在住の一般成人を対象にした調査から、極端な睡眠習慣がうつ状態の発現と関連すること、不眠の存在がうつ病罹患リスクを増大させること、不眠症者の12.7%にうつ病が併存しその頻度は年齢とともに増大すること、不眠症状に対して不適切な対処行動が数多く選択されていることが明らかになった。日本での向精神薬処方率は年々増加しており、睡眠薬処方の70%弱は2ヶ月以内の短期処方である一方、不眠群では抗うつ薬や抗精神病薬の使用量と処方期間が有意に増大し、特に長期の睡眠薬ユーザーでは精神疾患の続発と重症化の危険性が高いことが示された。予防的観点からも啓発を通じた睡眠衛生指導の重要性が示唆された。精神疾患に併存する睡眠障害の臨床病態と治療研究からは、大うつ病に伴う不眠症状はきわめて治療抵抗性で寛解期においても高率に残遺し、発症初期の残遺不眠がその後のうつ病の再発を予測する臨

床指標となることが示された。統合失調症および気分障害患者の 20～25%に睡眠時無呼吸症候群が合併し精神症状を増悪させており、肥満、加齢、BZP 系睡眠薬使用が危険因子として抽出された。広汎性発達障害等による児童精神科受診児の 70%以上に不眠、睡眠時随伴症、就床抵抗、過眠等のさまざまな睡眠問題が認められることが明らかになった。これら併存する睡眠障害の正確な診断と治療介入が精神症状の改善にも寄与することが明らかになった。上記の課題で得られた成果と関連領域の研究論文のレビューを通じて、“精神疾患に合併する睡眠障害の診断・治療ガイドラインと応用指針”をまとめた。

A. 研究目的

睡眠障害は単なる精神症状の一つではなく、精神疾患の前駆症状であり、リスク要因であり、また深刻な残遺症状となって患者の生活機能を障害する深刻な併存症である。本研究では精神疾患に合併する睡眠障害の実態と治療内容の妥当性を検証し、今後改善すべき課題を抽出することを目的とした。睡眠障害の適切な診断と対処が精神医療に資する効果とその機序を解明し、得られた成果をもとに精神科診療における実効性の高い睡眠医療ガイドラインと応用指針の作成をめざした。

B. 研究対象と方法

本研究班では、各種の精神疾患に合併する不眠、過眠、頻度の高いその他の睡眠障害の有病率と治療実態を明らかにするために以下の調査研究を行った。

- 1) 約 32 万人の加入者を有する大型健保団体診療報酬データを用いて、日本における向精神薬(睡眠薬、抗不安薬、抗うつ薬、抗精神病薬)の処方実態調査を行い、日本国内での推定処方率の経年的推移、睡眠薬の処方期間、長期ユーザーの臨床転帰に関するレトロスペクティブコホート調査を行った。
- 2) 鳥取県大山町在住の一般成人 5,872 名を対象とした抑うつ、睡眠障害、生活因子、睡眠薬服用との関連についてのコホート調査を行った。
- 3) 層化3段無作為抽出法による一般成人 2,600 人を対象とした調査を行い、うつ病診断群の睡眠習慣を調査した。
- 4) 厚生労働省保健福祉動向調査で得られた 24,000 人分のデータを用いて、うつ病診断群が選択している不眠症状に対する対処行動とその問題点に関する検討を行った。
- 5) 統合失調症、大うつ病、児童精神疾患(広汎性発達障害、多動性障害等)、パニック障害等に合併した不眠、過眠、睡眠時無呼吸症候群等の有病率、精神疾患の発症リスクへの影響、睡眠障害の治療効果等に関する実態調査、臨床病態研究、および治療効果に関する多施設共同研究を行った。
- 6) 薬物療法抵抗性のうつ病性障害・双極性障害を対象として、睡眠習慣調整を応用した非薬物的補完療法(断眠、睡眠相調節、高照度光)の有用性に関する効果検証試験を行った。
- 7) 上記の課題で得られた成果と関連領域の研究論文のレビューを通じて、“精神疾患に合併する睡眠障害の診断・治療ガイドラインと応用指針”の取りまとめを行った。

(倫理面への配慮)

研究の実施にあたっては各施設の倫理委員会の承認を得て行った。研究内容に関して対象者に十分に説明を行い、調査への

協力は対象者の自由意志によることを書面で明記したうえで同意を得た。

C. 結果

- 1) 国内の向精神薬処方動向から見た精神疾患と睡眠障害の受療実態調査: 2005年から3年間の大規模診療報酬データの連続解析から、日本の一般人口での処方率は平均で睡眠薬 2.9%、抗不安薬 3.6%、抗うつ薬 1.7%、抗精神病薬 0.6%と推定され、処方率は年々増加していた。また、年齢階層、性別の処方率には各向精神薬に特徴が見られた。例えば、睡眠薬および抗不安薬の処方率は加齢とともに顕著に増加し特に女性で高かった。抗うつ薬の処方率は男性では30~50歳の働き盛りで、女性では高齢層で高く、日本の自殺率の年齢階層・性別分布と極めて近似していた。睡眠薬使用群では抗うつ薬処方力価が有意に高かつ処方期間も長く、難治性経過を辿っていることが明らかになった。また3年間のレトロスペクティブコホート調査の結果、睡眠薬処方の70%弱は2ヶ月以内の短期処方である一方、長期の睡眠薬ユーザーではその後に抗うつ薬、抗精神病薬を併用するなど精神疾患を併発する危険性が高いことが明らかになった。
- 2) 精神疾患に併存する睡眠障害の実態、およびその臨床病態と治療研究: 大うつ病の初発患者128名の3年間の追跡調査から、うつ病に伴う不眠症状はきわめて治療抵抗性で寛解期においても高率に残遺すること、発症初期の残遺不眠がその後のうつ病の再発を予測する臨

床指標となることが示された。広汎性発達障害、多動性障害、チック障害と診断された児童精神科の初診児童288名(平均年齢9.5歳)の調査から、70%以上に不眠、睡眠時随伴症、就床抵抗、過眠等のさまざまな睡眠問題が認められることが明らかになった。同様に、精神科入院中の統合失調症(792名中191名、24.1%)および気分障害(355名中80名、22.5%)患者において中等度以上(3% ODI>15)の睡眠時無呼吸症候群が高率に認められ、肥満、加齢、高用量のベンゾジアゼピン系睡眠薬使用が危険因子として抽出された。また治療介入研究の結果、統合失調症、気分障害、パニック障害に合併した睡眠時無呼吸症候群の診断と治療が精神症状の改善にも寄与することが明らかになった。また、薬物療法抵抗性の気分障害患者に対して、睡眠習慣調整を応用した非薬物的補完療法(断眠、睡眠相調節、高照度光)が有用であることを示すデータが得られた。

- 3) 一般住民を対象とした気分障害に合併する不眠症状とその対処行動に関する疫学調査: 層化3段無作為抽出法による一般成人2,600人を対象とした解析から、実質睡眠時間が6時間未満もしくは9時間以上、就寝時刻が22時以前もしくは午前2時以降、起床時刻が午前5時以前など極端な睡眠習慣がうつ状態の発現と関連が強いことが明らかになった。厚生労働省保健福祉動向調査で得られた24,000人分のデータ解析から、不眠症状を有する者の12.7%にうつ病の併存が強く疑われ、その頻度は年齢

とともに顕著に増加することが明らかになった。また、これらの臨床群では不眠症状に対して症状の増悪を招く不適切な対処行動を数多く選択していることが明らかになった。予防医学的な観点からも啓発活動を通じた睡眠衛生指導の必要性が強く示唆された。

- 4) 診断・治療ガイドラインの作成: 上記の課題で得られた成果と関連領域の研究論文のレビューを通じて、“精神疾患に合併する睡眠障害の診断・治療ガイドラインと応用指針”をまとめた。

D. 考察

本研究を通じて、精神疾患に合併した睡眠障害の実態を明らかにしつつ、不眠をはじめとする睡眠障害が精神疾患の単なる一症状ではなく、精神疾患の病態生理に密接に関与した“併存症”であり、発症リスク要因として、また臨床転帰の悪化要因として留意すべきであることを明らかにできた。また、日本国内の一般住民を対象とした調査から、不眠とうつ病の併存率、対処行動上の問題点、うつ病者にみられる睡眠習慣の実態が明らかになった。大規模診療報酬データの解析から精神疾患患者の受療動向、医療機関での処方動向について精度の高い情報が得られた。

本研究班の成果は臨床的な示唆に富んでおり、実地臨床に反映することができる具体的な情報を数多く含んでいる。得られた研究成果について広く啓発し、精神医療に展開することで、精神疾患に合併した睡眠障害の診断と治療および臨床転帰の改善に寄与することが可能であると考える。

E. 結語

本研究班では精神医療において高頻度にみられる睡眠障害を単なる症状として看過せず、正しく診断し早期に適切な治療介入を行うことの重要性について明らかにした。得られた研究成果を“精神疾患に合併する睡眠障害の診断・治療ガイドラインと応用指針”としてまとめた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

G-1. 論文発表

1. Enomoto M, Tsutsui T, Higashino S, Otaga M, Higuchi S, Aritake S, Hida A, Tamura M, Matsuura M, Kaneita Y, Takahashi K, Mishima K: Sleep-related Problems and Use of Hypnotics in Inpatients of Acute Hospital Wards. (in press). *General Hospital Psychiatry*, 2010.
2. Soshi T, Kuriyama K, Aritake S, Enomoto M, Hida A, Tamura M, Kim Y, Mishima K: Sleep deprivation influences diurnal variation of human time perception with prefrontal activity change: a functional near-infrared spectroscopy study. *PLoS One* 5:e8395, 2010.
3. Aritake-Okada S, Kaneita Y, Uchiyama M, Mishima K, Ohida T: Non-Pharmacological Self-Management of Sleep Among the Japanese General Population. *Journal*

- of Clinical Sleep Medicine 5:464-469, 2009.
4. Aritake-Okada S, Uchiyama M, Suzuki H, Tagaya H, Kuriyama K, Matsuura M, Takahashi K, Higuchi S, Mishima K: Time estimation during sleep relates to the amount of slow wave sleep in humans. *Neurosci Res* 63:115-121, 2009.
 5. Enomoto M, Endo T, Suenaga K, Miura N, Nakano Y, Kohtoh S, Taguchi Y, Aritake S, Higuchi S, Matsuura M, Takahashi K, Mishima K: Newly developed waist actigraphy and its sleep/wake scoring algorithm. *Sleep and Biological Rhythms* 7:17-22, 2009.
 6. Nagase Y, Uchiyama M, Kaneita Y, Li L, Kaji T, Takahashi S, Konno M, Mishima K, Nishikawa T, Ohida T: Coping strategies and their correlates with depression in the Japanese general population. *Psychiatry Res* 168:57-66, 2009.
 7. Nishino S, Mishima K, Mignot E, Dement WC: Sedative-Hypnotics, in *Textbook of Psychopharmacology -4th edition-*. Edited by Schatzberg AF, Nemeroff CB. Washington, DC, American Psychiatric Publishing Inc., 2009, pp. 821-841.
 8. Hida A, Kusanagi H, Satoh K, Kato T, Matsumoto Y, Echizenya M, Shimizu T, Higuchi S, Mishima K: Expression profiles of PERIOD1, 2, and 3 in peripheral blood mononuclear cells from older subjects. *Life Sci* 84:33-37, 2009.
 9. Higuchi S, Ishibashi K, Aritake S, Enomoto M, Hida A, Tamura M, Kozaki T, Motohashi Y, Mishima K: Inter-individual difference in pupil size correlates to suppression of melatonin by exposure to light. *Neurosci Lett* 440:23-26, 2008.
 10. Hida A, Mishima K, Okawa M: Aging and circadian rhythms. *AINO JOURNAL* 7:3-8, 2008.
 11. Enomoto M, Inoue Y, Namba K, Munezawa T, Matsuura M: Clinical characteristics of restless legs syndrome in end-stage renal failure and idiopathic RLS patients. *Mov Disord* 23:811-816, 2008.
 12. Kuriyama K, Mishima K, Suzuki H, Aritake S, Uchiyama M: Sleep accelerates the improvement in working memory performance. *J Neurosci* 28:10145-10150, 2008.
 13. Kusanagi H, Hida A, Satoh K, Echizenya M, Shimizu T, Pendergast JS, Yamazaki S, Mishima K: Expression profiles of circadian clock genes in human peripheral blood mononuclear cells. *Neurosci Res* 61:136-142, 2008.
 14. Mishima K, Fujiki N, Yoshida Y, Sakurai T, Honda M, Mignot E, Nishino S: Hypocretin receptor expression in canine and murine narcolepsy models and in hypocretin-ligand deficient human narcolepsy. *SLEEP* 31:1119-1126, 2008.

15. Maruyama F, Mishima K, Shimizu T: A case of isolated retrograde amnesia with déjà vu associated with right temporal lobe epilepsy. *Akita J of Medicine* 34:245-250, 2007.
16. Echizenya M, Mishima K, Satoh K, Kusanagi H, Ohkubo T, Shimizu T: Dissociation between objective psychomotor impairment and subjective sleepiness after diazepam administration in the aged people. *Hum Psychopharmacol* 22:365-372, 2007.
17. 三島和夫: 睡眠障害:こころの健康科学研究の現状と課題 ―今後の研究のあり方について―. 東京: 精神・神経科学振興財団, 2007.
18. 三島和夫: 高齢者、認知症患者の睡眠障害と治療上の留意点. *精神医学* 49:501-510, 2007.
19. 三島和夫: 高齢者の不眠とその対処. *カレントセラピー* 25:34-39, 2007.
20. 三島和夫: 不眠症とその対処, in *睡眠と健康 ―心地よい眠りを得るために―*. Edited by 忠河, 亀田治男, 裕矢. 東京, 富士レボオ株式会社, 2008, pp. 118-113.
21. 三島和夫: 老化と概日時計 ―Aging of Circadian System, in *時間生物学事典*. Edited by 石田直理雄, 本間研一. 東京, 朝倉書店, 2008, pp. 296-297.
22. 三島和夫: 【特集／睡眠障害の診断と治療】概日リズム障害とは―診断および治療. 別冊 *日本医師会雑誌* 137:1443-1447, 2008.
23. 三島和夫: 精神科一般診療で遭遇する睡眠障害とその対応 気分障害診療における不眠管理の実態とその問題点. *精神神経学雑誌* 110:108-114, 2008.
24. 三島和夫: 【特集／睡眠障害と薬物治療～すこやかな眠りのために～】加齢, 認知症に伴う睡眠障害. *医薬ジャーナル* 44:79-83, 2008.
25. 三島和夫: 【特集／高齢者認知症の知識と理解】認知症にみられる睡眠障害とその対応. *臨床と研究* 85:515-519, 2008.
26. 三島和夫: 【臨床睡眠学 ―睡眠障害の基礎と臨床―】概日リズム睡眠障害 (不規制型睡眠・覚醒タイプ). *日本臨床* 66:325-330, 2008.
27. 三島和夫: 睡眠に関連したところとかからのしくみ, in *介護福祉士養成テキスト17 ところとかだらのしくみ*. Edited by 長谷川和夫, 遠藤英俊. 東京, 建帛社, 2009, pp. 133-149.
28. 三島和夫: 高齢者および認知症での睡眠障害, in *精神疾患における睡眠障害の対応と治療*. Edited by 内山真. 東京, 中山書店, 2009, pp. 135-147.
29. 三島和夫: 認知症, in *睡眠学*. Edited by 日本睡眠学会. 東京, 朝倉書店, 2009, pp. 600-604.
30. 三島和夫: 睡眠と生物時計の老化, in *睡眠学*. Edited by 日本睡眠学会. 東京, 朝倉書店, 2009, pp. 182-189.
31. 三島和夫: メラトニン, in *睡眠学*. Edited by 日本睡眠学会. 東京, 朝倉書店, 2009, pp. 55-61.
32. 三島和夫: 【特集／産業社会と睡眠】特集にあたって. *睡眠医療* 3:331-332, 2009.

33. 三島和夫: うつ病における併存不眠の治療管理. 精神医学 51:635-647, 2009.
34. 三島和夫: 睡眠とその障害「うつ病」. Clinical Neuroscience 27:194-197, 2009.
35. 三島和夫, 岩城忍, 阿部又一郎: 単極性うつ病と睡眠. 睡眠医療 2:13-20, 2007.
36. 三島和夫, 有竹清夏, 高橋清久: 【特集/睡眠障害の基礎と臨床】現代社会と睡眠障害. 精神科 12:149-154, 2008.
37. 三島和夫, 阿部又一郎: 不眠症の病理・病態生理. 日本臨牀 67:1483-1487, 2009.
38. 有竹清夏: 【睡眠内省】ヒト睡眠中における時間認知機構と睡眠医学への応用. 臨床脳波 50:319-325, 2008.
39. 有竹清夏, 三島和夫: 高齢者の睡眠障害の病態と診断・治療, in 日常臨床で押さえておきたい睡眠障害の知識. Edited by 内村直尚. 東京, 南山堂, 2007, pp. 121-128.
40. 有竹清夏, 三島和夫: 日常診療で抑えておきたい睡眠障害の知識「高齢者の睡眠障害の病態と診断・治療」. 治療 89:121-128, 2007.
41. 有竹清夏, 三島和夫: 【睡眠障害・疲労とうつ】慢性疲労症候群(CFS)と睡眠障害・疲労とうつ. 睡眠医療 3:513-518, 2009.
42. 有竹清夏, 三島和夫, 大川匡子: 特集:初老期・高齢期のホルモン療法 高齢期うつとメラトニン. モダン・フィジシャン 27:1109-1112, 2007.
43. 有竹清夏, 榎本みのり, 松浦雅人: 神経疾患と睡眠障害. 日本薬理学雑誌 (Folia Pharmacologia Japonica) 129:418-421, 2007.
44. 榎本みのり, 三島和夫: 現代社会における睡眠問題とその社会的影響. Pharma Medica 27:21-25, 2009.
45. 榎本みのり, 有竹さやか, 三島和夫: 認知症の睡眠障害. 老年医学 45:739-743, 2007.
46. 樋口重和, 三島和夫: 団塊の世代にとっての光と健康. 設備と管理 42:35-38, 2008.
47. 稲垣正俊, 三島和夫, 山田光彦: II. 精神疾患対策モデルからのアプローチ. 自殺予防と危機介入 28:10-14, 2009.
48. 肥田昌子, 三島和夫: ヒトの睡眠・生物時計機能の加齢変化. 時間生物学 14:9-17, 2008.
49. 肥田昌子, 三島和夫: 特集 高齢者の睡眠障害 概日リズム睡眠障害. 睡眠医療 3:7, 2009.
50. 越前屋勝, 三島和夫: 睡眠・覚醒リズム障害を訴える患者へのアプローチ. Medicina 44:1252-1256, 2007.
51. 阿部又一郎, 三島和夫: 精神疾患, in 時間療法の基礎と実践. Edited by 大戸茂弘, 吉山友二. 東京, 丸善株式会社, 2007, pp. 39-46.
52. 阿部又一郎, 三島和夫: 不眠症の概念と病態生理. 脳21 3:62-68, 2008.
53. Yamahara M, Noguchi T, Okawa M, Yamada N: The relationship between subjective sleep disturbance and complexity of 24-hour activity utilizing fractal theory in psychiatric inpatients

- Sleep and Biological Rhythms, 7(1), 11-16, 2009
54. Gergely V, Pallos H, Mashima K, Miyazaki S, Tanaka T, Okawa M, Yamada N: Evaluation of the usefulness of the Sleep Strip for screening obstructive sleep apnea-hypopnea syndrome in Japan Sleep and Biological Rhythms, 7(1), 43-51, 2009
 55. Iwamitsu Y, Mikan O, Konishi M, Aoki T, Masako O, Yamada N: Schizophrenic patients have a preference for symmetrical rectangles: A comparison with preferences of university students International Journal of Psychiatry in Clinical Practice, 13(2): 147-152, 2009
 56. Arimura M, Imai M, Okawa M, Fujimura T, Yamada N: Sleep, mental health status, and medical errors among hospital nurses in Japan Industrial Health (in press)
 57. 山田尚登: 抑うつ・ストレスと生活習慣病 醫學のあゆみ 223:819 - 822, 2007.
 58. 山田尚登: 睡眠とメタボリックシンドローム 抑うつ・ストレスと生活習慣病 医学のあゆみ、223(10), 819-822, 2007
 59. 水元洋貴、山田尚登: 双極性障害と睡眠 睡眠医療 2,21-25, 2007
 60. 村上純一、山田尚登: IV. 治療法 非薬物療法 高照度光療法 Nippon Rinsho 66, Supple2, 172-175, 2008
 61. 山田尚登: IV. 臨床各論 不眠症群 精神疾患による不眠 気分障害・感情障害 Nippon Rinsho 66, Supple2, 208-213, 2008
 62. 山田尚登: 不眠症候群 精神疾患による不眠 気分障害・感情障害 日本臨床 66: 208-21、2008 井上香里、山田尚登: 「睡眠」の正しい理解と睡眠障害治療の基本 薬局 59(1), 2008
 63. 山田尚登: 不眠とうつ病 睡眠医療 3, 202-206, 2009
 64. 栗本直樹、山田尚登: V 慢性疾患と運動療法 うつ病 身体活動・運動と生活習慣病 ー運動生理学と最新の予防・治療ー Nippon Rinsho 67, suppl 2, 427-432, 2009
 65. 青木崇、山田尚登: 精神科のくすりはたらき方 抗不安薬のはたらき方 こころの科学 143: 26-31, 2009
 66. 山田尚登: Olanzapine と Well-being MARTA 7, 17-21, 2009
 67. 山田尚登: 精神疾患と睡眠時無呼吸症候群 精神医学 51(7), 669-673, 2009
 68. 藤村俊雅: 携帯型パルスオキシメータ及び活動量計(パルスウォッチ)を用いた精神疾患患者における睡眠障害の評価 第2回近畿睡眠研究会 2008
 69. 村上純一: 統合失調症及び気分障害患者における睡眠呼吸障害のスクリーニング及び危険因子の特定 第3回近畿睡眠研究会 2008
 70. 青木治亮、吉村 篤、青木 崇、今井眞、青木直亮、青木泰亮、山田尚登: 睡眠障害を伴う疾患の診断における睡眠ポリグラフィ検査の有用性 第28回日本精神科診断学会 2008 一般演題
 71. 山田尚登: 睡眠障害、うつ病、自殺予防の観点から 第6回睡眠学研究会、2009, 京都 (特別講演)

72. 山田尚登:うつ病と生活習慣病の関連性について 第105回に本精神神経学会 2009、神戸市 (シンポジウム)
73. Hiroshi Ujike, Taleshi Katsu, Yuko Okahisa, Manabu Takaki, Masafumi Kodama, Toshiya Inada, Naohisa Uchimura, Mitsuhiko Yamada, Nakao Iwata, Ichiro Sora, Masaomi Iyo, Norio Ozaki, Shigetoshi Kuroda : Genetic variants of but not D3 or D4 dopamine receptor gene are associated with rapid onset and poor prognosis of methamphetamine psychosis . Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry 2009 ;33 (5) : 903-905
74. Tatsuya Kotaka, Hiroshi Ujike, Yuko Okahisa, Manabu Takaki, Kenji Nakata, Masafumi Kodama, Toshiya Inada, Mitsuhiko Yamada, Naohisa Uchimura, Nakao Iwata, Ichiro Sora, Masaomi Iyo, Shigetoshi Kuroda : G72 gene is associated with susceptibility to methamphetamine psychosis . Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry 2009 ;33 (6) : 1046-1049
75. Taro Kishi, Masashi Ikeda, Tsuyoshi Kitajima, Yoshio Yamanouchi, Yoko Kinoshita, Kunihiro Kawashima, Tomo Okochi, Tomoko Tsunoka, Takenori Okumura, Toshiya Inada, Hiroshi Ujike, Mitsuhiko Yamada, Naohisa Uchimura, Ichiro Sora, Masaomi Iyo, Norio Ozaki, Nakao Iwata . : A functional polymorphism in estrogen receptor alpha gene(ESR1) is associated with Japanese methamphetamine induced psychosis. Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry 2009;33 (5) : 895-898
76. Kenzo Haraguchi, Masaharu Maeda, Yan Xiao Mei, Naohisa Uchimura : Stigma associated with schizophrenia : Cultural comparison of social distance in Japan and China. Psychiatry and Clinical Neurosciences 2009;63 (2) : 153-160
77. Hiroshi Hiejima, Yoshihiro Nishi, Hiroshi Hosoda, Junko Yoh, Hiroharu Mifune, Motoyasu Satou, Hiroyuki Sugimoto, Seiichi Chiba, Yukie Kawahara, Eiichiro Tanaka, Hironobu Yoshimatsu, Naohisa Uchimura, Kenji Kangawa, Masayasu Kojima:Regional distribution and the dynamics of *n*-decanoyl ghrelin, another acyl-form of ghrelin, upon fasting in rodents. Regulatory Peptides. 2009;156(1-3): 47-56
78. 土生川光成, 富松健太郎, 小城公宏, 松山誠一郎, 橋爪祐二, 内村直尚:うつ病における fluvoxamine 投与前後の睡眠ポリグラフ所見と治療反応性予測. 臨床精神医学 2009 ; 38(8) : 1073-1081
79. Misari Oe, Masaharu Maeda, Naohisa Uchimura:Longitudinal psychological

- effects of the Garuda Indonesia air disaster in Japan. Kurume Medical Journal 2008;55(1,2):1-6
80. 内村直尚:うつ病患者の不眠に対する超短時間型と兆時間型ベンゾジアゼピン(BZ)系睡眠薬の有用性の検討. Pharma Medica 2008 ; 26 (7) : 96-101
81. 兒玉隆之、森田喜一郎、森 圭一郎、小路純央、内村直尚: ERP の Microstate 法を用いた LORETA 解析. 臨床脳波 2008;50(10):610-614
82. Mitsunari Habukawa ,Naohisa Uchimura ,Masaharu Maeda, Nozomu Kotorii ,Hisao Maeda :Sleep Findings in Young Adult Patients with Posttraumatic Stress Disorder. Biol Psychiatry 2007;62:1179-1182
83. 武村 史, 神林 崇, 井上雄一, 内村直尚, 伊藤 洋, 内山 真, 武村尊生, 清水徹男:不眠症治療による日中の QOL の改善—Day-QOL study—. 治療 2007;89:2376-2380
84. 内村直尚:睡眠障害. 日本排尿機能学会 編集 夜間頻尿診療ガイドライン 2009;45-48
85. 内村直尚:不眠. 日本排尿機能学会 編集 夜間頻尿診療ガイドライン 2009;75-79
86. 内村直尚:レストレスレッグス症候群の治療に用いられる薬物とその特徴. 井上雄一、内村直尚、平田幸一編著 レストレスレッグス症候群(RLS)だからどうしても脚を動かしたい. 東京, アルタ出版, 111-118, 2008
87. 内村直尚:睡眠障害—精神生理性不眠症を中心に—. 池田宇一、大越教夫、横田千津子監修 病気と薬パーフェクト BOOK2008. 東京, 南山堂, 887-891, 2008
88. 内村直尚:糖尿病と睡眠障害. 矢崎義雄監修 分子糖尿病学の進歩—基礎から臨床まで—2008. 東京, 金原出版, 147-152, 2008
89. 橋爪祐二、内村直尚:睡眠薬・抗不安薬. 高久史麿監修 治療薬ハンドブック. 東京, じほう, 22-25, 2008
90. 内村直尚 : 不眠—睡眠薬の使い方. 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢 総編集 今日の治療指針, 東京, 医学書院 2007;708-709.
91. 内村直尚 : 昼寝(午睡)のススメ—15 分間の午睡で頭も体もリフレッシュ—. 藤丸知子, 石竹達也, 佐川公矯編 久留米大学公開講座 34 こころとからだの癒しとは—大切な自分のため—to 福岡, 九州大学出版会 2007; 59-76.
92. 内村直尚 : 急性期における薬物療法 —抗うつ薬および睡眠薬—. 前田久雄 編 精神科急性期治療病棟—急性期からリハビリまで— 東京, 星和書店, 2007;47-54.
93. 亀井雄一:高照度光療法 日本臨床 67:1611-1615,2009.
94. 岩垂喜貴、亀井雄一:睡眠薬 Medical Practice 26:1525-1529,2009.
95. 岩垂喜貴、亀井雄一、早川達郎: 中時間作用型睡眠薬の特徴と使い方最新精神医学 14:437-442,2009
96. 亀井雄一:睡眠調節の仕組み 精神疾

- 患における睡眠障害の対応と治療 中山書店、東京、p219-225,2009.
97. 亀井雄一:長時間睡眠 睡眠学 朝倉書店、東京、p551-553, 2009.
98. 亀井雄一、内山 真:光療法 医療従事者のための補完・代替医療。今西二郎(編)、金芳堂、京都、p328-334, 2009.
99. 井上 雄一,本多 裕,高橋 康郎,菱川泰夫,村崎 光邦:日本人ナルコレプシ一患者におけるモダフィニルの有効性と安全性の検討 -プラセボ対照多施設並行群間二重盲検比較試験-, 睡眠医療 (1)4,85-97, 2007.7
100. 宗澤岳史, 井上雄一:原発性不眠症における睡眠薬の服用長期化に関連する要因の検討, 精神科治療学, 22 (9), 1035-1041, 2007
101. Tsuiki S, Almeida F.R., Lowe A.A., Inoue Y: Undergraduate dental education on oral appliance therapy for obstructive sleep apnea at The University of British Columbia. Sleep Biol Rhythms 5(4): 294-299, 2007.10
102. Tsuiki S, Ryan C.F, Lowe A.A., Inoue Y: Functional contribution of mandibular advancement to awake upper airway patency in obstructive sleep apnea. Sleep Breath 11(4):245-251, 2007.12
103. Hayashida K, Inoue Y, Chiba S, Yagi T, Urashima M, Honda Y, Itoh H.: Factors influencing subjective sleepiness in patients with obstructive sleep apnea syndrome. Psychiatry Clin Neurosci. 61(5):558-63, 2007.10
104. Usui Y, Tomiyama H, Hashimoto H, Takata Y, Inoue Y, Asano K, Kurohane S, Shiina K, Hirayama Y, Yamashina : A Plasma B-type natriuretic peptide level is associated with left ventricular hypertrophy among obstructive sleep apnoea patients J Hypertens 26(1):117-123, 2008.1
105. Nakamura M, Inoue Y, Matsuoka H:
106. Tractographic imaging of posttraumatic
107. hypersomnia. Sleep Medicine 9:98-100, 2008.1
108. Enomoto M, Inoue Y, Namba K, et al :
109. Clinical Characteristics of Restless Legs Syndrome in End-Stage Renal Failure and Idiopathic RLS Patients, Mov Disord., 23(6) 811-816,2008.04
110. 2. Ozone M, Yagi T, Itoh H, Tamura Y, Inoue Y, et al : Effects of Zolpidem on Cyclic Alternating Pattern, an Objective Marker of Sleep Instability, in Japanese Patients with Psychophysiological Insomnia: A Randomized crossover Comparative Study with Placebo. Pharmacopsychiatry 41(3)106-114,2008.05
111. 3. Nomura T, Inoue Y, Kusumi M, et al : Email-based epidemiological surveys on restless legs syndrome in Japan. Sleep and Biological Rhythms, 6(3)139-145, 2008.07
112. 4. Endo Y, Suzuki M, Sato M, Namba K, Hasegawa M, Matsuura M, Inoue Y : Prevalence of Complex Sleep Apnea Among Japanese Patients with Sleep Apnea Syndrome. Tohoku J.Exp.Med. 215(4)349-354, 2008.08

113. 5. Hazama G, Inoue Y, Kojima K, et al :
The Prevalence of Probable Delayed
Sleep Phase Syndrome in Students from
Junior High School to University in
Tottori, Japan. *Tohoku J. Exp. Med.*
216(1):95-98, 2008.09
114. 6. Oka Y, Suzuki S, Inoue Y : Bedtime
Activities, Sleep Environment, and
Sleep/Wake Patterns of Japanese
Elementary School Children. *Behavioral
Sleep Medicine* 6(4):220-233, 2008.10
115. Komada Y, Inoue Y, Hayashida K, et al :
Clinical significance and correlates of
behaviorally induced insufficient sleep
syndrome. *Sleep Med.* 9(8):851-856,
2008.12
116. Nomura T, Inoue Y, Kusumi M, et al :
Prevalence of restless legs syndrome in a
rural community in Japan. *Mov Disord.*
23(16):2363-2369, 2008.12
117. Ozaki A, Inoue Y, Nakajima T, et al :
Health-related quality of life among
drug-naïve patients with narcolepsy with
cataplexy, narcolepsy without cataplexy,
and idiopathic hypersomnia without long
sleep time. *J Clin Sleep Med.*
4(6):572-578, 2008.12
118. Miyamoto T, Miyamoto M, Iwanami M,
Suzuki K, Inoue Y, et al : Odor
identification test as an indicator of
idiopathic REM sleep behavior disorder.
Mov Disord. 24(2):268-273, 2009.01
119. Moriwaki H, Inoue Y, Namba K, et al.:
Clinical significance of upper airway
obstruction pattern during apneic
episodes on ultrafast dynamic magnetic
resonance imaging. *Auris Nasus. Larynx.*,
36(2):187-191. 2009.04
120. Takegami M, Suzukamo Y, Wakita T,
Noguchi H, Chin K, Kadotani H, Inoue Y,
et al. : Development of a Japanese
version of the Epworth Sleepiness Scale
(JESS) based on Item Response Theory.
Sleep Med. 10(5):556-565. 2009.05
121. Miyamoto T, Miyamoto M, Suzuki K,
Ikematsu A, Usui Y, Inoue Y, Hirata K. :
Comparison of severity of obstructive
sleep apnea and degree of accumulation
of cardiac 123I-MIBG radioactivity as a
diagnostic marker for idiopathic REM
sleep behavior disorder. *Sleep Med.*
10(5):577-580. 2009.05
122. 宗澤岳史, CM Morin, 井上雄一, 根建
金男, 日本語版「睡眠に対する非機能的
な信念と態度質問票」の開発 *睡眠医
療* 3(3):396-403 2009.08
123. 岡 靖哲, 堀内史枝, 谷川 武, 鈴木周
平, 近藤富香, 櫻井 進, 斉藤 功, 谷向
知, 上野修一, 井上雄一, 児童青年期
睡眠チェックリスト(Child and Adolescent
Sleep Checklist: CASC)による睡眠調査・
問診システムの作成と評価 *睡眠医療*
3(3): 404-408. 2009.08
124. Nishioka K, Ross OA, Ishii K, Kachergus
JM, Ishiwata K, Kitagawa M, Kono S, Obi
T, Mizoguchi K, Inoue Y, et al.:
Expanding the clinical phenotype of
SNCA duplication carriers. *Mov Disord.*
24(12):1811-1819. 2009.09
125. Komada Y, Nishida Y, Namba K, Abe T,
Tsuiki S, Inoue Y. Elevated risk of motor
vehicle accident for male drivers with

- obstructive sleep apnea syndrome in the Tokyo metropolitan area. *Tohoku J Exp Med.* 219(1):11–16. 2009.09
126. Sasai T, Inoue Y, Komada Y, et al. : Comparison of clinical characteristics among narcolepsy with and without cataplexy and idiopathic hypersomnia without long sleep time, focusing on HLA-DRB1(*)1501/DQB1(*)0602 finding. *Sleep Med.* 10(9):961–966. 2009.10
127. Uemura Y, Nomura T, Inoue Y, et al. : Validation of the Parkinson's disease sleep scale in Japanese patients: A comparison study using the Pittsburgh Sleep Quality Index, the Epworth Sleepiness Scale and Polysomnography. *J Neurol Sci.*, 287(1-2):36–40. 2009.12
128. Miyamoto T, Miyamoto M, Iwanami M, Kobayashi M, Nakamura M, Inoue Y, et al. : The REM sleep behavior disorder screening questionnaire: Validation study of a Japanese version. *Sleep Med.*, 10(10):1151–1154. 2009.12
129. Inoue Y, Hirata K, Kuroda K, et al. : Efficacy and safety of pramipexole in Japanese patients with primary restless legs syndrome: A polysomnographic randomized, double-blind, placebo-controlled study. *Sleep Med.*, 11(1):11–16. 2010.01
130. Matsuo A, Inoue Y, Satoru T, et al. : Clinical characteristics of Japanese patients with familial obstructive sleep apnoea syndrome. *Respirology.*, 15(1):93–98. 2010.01
131. Léger D, Poursain B, Neubauer D, Uchiyama M. An international survey of sleeping problems in the general population. *Curr Med Res Opin* 24:307–17, 2008.
132. Ohida T, Kaneita Y, Osaki Y, Harano S, Tanihata T, Takemura S, Wada K, Kanda H, Hayashi K, Uchiyama M. Is passive smoking associated with sleep disturbance among pregnant women? *Sleep* 30:1155–61, 2007.
133. Kaneita Y, Uchiyama M, Takemura S, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Asai T, Tsutsui T, Kaneko A, Nakamura H, Ohida T. Use of alcohol and hypnotic medication as aids to sleep among the Japanese general population. *Sleep Med* 8:723–32, 2007.
134. Okawa M, Uchiyama M. Circadian rhythm sleep disorders: characteristics and entrainment pathology in delayed sleep phase and non-24-h sleep-wake syndrome. *Sleep Med Rev* 11:485–96, 2007.
135. Kaneita Y, Uchiyama M, Yoshiike N, Ohida Y: Associations of Usual Sleep Duration with Serum Lipid and Lipoprotein Levels, *SLEEP*, 31: 645–652, 2008.
136. Uchiyama M: PREFACE, *Sleep and Biological Rhythms*, 6:127, 2008.
137. Uchiyama M, Lockley SW: Non-24-Hour Sleep -Wake Syndrome in sighted and Blind Patients. *Sleep Med Clinica* 4: 195–211, 2009.

138. Nagase Y, Uchiyama M, Kaneita Y, Li L, Kaji T, Takahashi S, Konno M, Mishima K, Nishikawa T, Ohida T: Coping strategies and their correlates with depression in the Japanese general population. *Psychiatry Research* 168: 57-66, 2009.
139. Aritake-Okada S, Uchiyama M, Suzuki H, Tagaya H, Kuriyama K, Matsuura M, Takahashi K, Higuchi S, Mishima K: Time estimation during sleep relates to the amount of slow wave sleep in humans. *Neuroscience Research* 63: 115-121, 2009.
140. Aritake-Okada S, Kaneita Y, Uchiyama M, Mishima K, Ohida T: Non-pharmacological self-management of sleep among the Japanese general population. *Journal of Clinical Sleep Medicine* 5: 464-469, 2009.
141. 金野倫子, 内山真. 認知症と睡眠についてのトピックス—レビー小体型認知症と睡眠. *Cognition and Dementia*. 6:52-59, 2007
142. 金野倫子, 河合真紀子, 森 宏美, 松崎陽子, 内山真. 不眠. 女性外来診断マニュアル. 94(suppl.):302-308, 2007
143. 内山真. 睡眠障害の診断と治療. year note 主要病態・主要疾患の論文集 2008. 1603-1619, 2007.
144. 内山真. 不眠症とその近接領域. *精神医学*. 49:487-498, 2007.
145. 内山真. 睡眠障害. 今日の診断基準. pp. 595-597, 2007.
146. 内山真. 眠れない, どうしよう? (うつ病も含む). 糖尿病診療 Q&A. pp.339-341, 2007.
147. 内山真. 不眠・うつ状態の患者にはどう対処すればよいでしょうか? 糖尿病療養指導 Q&A. pp.270-272, 2007
148. 内山真. うつ病と睡眠障害. *老年医学*. 45:733-738, 2007
149. 内山真. 不眠を訴える患者へのアプローチ. *medicina*. 44:1242-1245, 2007
150. 内山真. 不眠症の治療による日中のQOLの改善—DAY-QOL study—. 治療. 89: 2376-2380, 2007.
151. Sekiguchi K, Shibui K, Li L, Uchiyama M, Akatsuki K, Yoshida M, Masuda Y, Takashima Y. Associations of Daily-Life Related Factors and Occupations Associated with the Accumulation of Somatic or Psychological Complaints in the General Adult Population of Japan. *杏林医学会雑誌*. 37:102-117, 2007.
152. 金野倫子, 内山真. 高齢者における睡眠障害とせん妄—その連続性に着目して鑑別と治療を考える—. *精神科治療学*. 22: 991-1000, 2007.
153. 武村 真治, 大井田 隆, 兼板 佳孝, 内山真. 睡眠障害の経済的評価. *Geriatric Medicine (老年医学)*. 45:679-685, 2007.
154. 内山真. 期待される新規作用機序の睡眠障害治療薬. *臨床精神薬理*. 10:2035-2045, 2007.
155. 内山真. 睡眠障害の診断と睡眠薬の使い方. *日本医師会雑誌*. 136:1511-1515, 2007
156. 内山真. 季節性感情障害と睡眠. 睡

- 眠医療. 2:39-44, 2007
157. 土井由利子, 岡 靖哲, 堀内史枝, 大川 匡子, 内山真. 子供の睡眠習慣質問票日本語版 The Japanese version of children's Sleep Habits Questionnaire (CSHQ-J) の作成. 睡眠医療. 2:83-88, 2007.
158. 内山真. 不眠・睡眠不足とメタボリックシンドローム. 医学のあゆみ. 223:837-841, 2007.
159. 内山真. ナルコレプシー. こころの病気を知る辞典. pp.177-180, 2007.
160. 内山真. 睡眠障害. 臨床精神医学 必須! 向精神薬の副作用と対策-安全な薬物療法のために-. 36. 増刊. 98-103, 2007.
161. 内山真. 睡眠を調節する2つのメカニズム. 薬局. 59:3-9, 2008.
162. 内山真. 睡眠障害治療に有用な臨床検査. 精神科治療学. 23: 47-53, 2008.
163. 内山真, 大川匡子: 睡眠障害の概念と国際分野, 臨床睡眠学, 66 増刊: 11-20, 2008.
164. 降旗隆二, 久保英之, 鈴木正泰, 松崎大和, 内山真: Huntington 病に伴う幻覚妄想状態に Risperidone が奏功した1例, 東京精神医学会誌, 25:21-25, 2008.
165. 内山真: 1.特集企画にあたって~睡眠障害の適切な理解と治療にむけて~, 医薬ジャーナル 44:71-72, 2008.
166. 内山真: 7.睡眠薬の適正使用と服薬指導, 医薬ジャーナル, 44:110-114, 2008.
167. 内山真: 睡眠を科学する, 臨床麻酔, 32:885-893, 2008.
168. 内山真: 高齢者の睡眠障害, 最新精神医学, 13:347-353, 2008.
169. 内山真: 『ねむりと医療』の創刊にあたって, ねむりと医療, 1:巻頭言, 2008.
170. 内山真: 不眠・睡眠不足とメタボリックシンドローム, ねむりと医療, 1:1-4, 2008.
171. 内山真: ねむりの達人がお応えします-Q&A 第1回 高齢者の睡眠障害にどう対応するか?, ねむりと医療, 1:40-42, 2008.
172. 内山真: 睡眠不足が代謝と内分泌機能に与える影響, ねむりと医療, 1: 43-45, 2008.
173. 内山真: 睡眠障害-総論, 心療内科, 12:341-344, 2008.
174. 内山真: 睡眠障害の診断の進め方, 日本医師会雑誌, 137:1412-1416, 2008.
175. 内山真: 脳を休ませるしくみ, 環境と健康, 21:404-414, 2008.
176. 内山真: 睡眠薬の使用法とそのはたらき, こころの科学, 143, 32-39, 2008.
177. 内山真: 睡眠障害の診断と治療, Year Note Selected Articles 主要病態・主要疾患の論文集 2008-2009, 1603-1619, 2008, メディックメディア.
178. 内山真: 41 コンスタントルーチン, 時間生物学辞典, 114-115, 2008, 朝倉書店.
179. 内山真: 42 脱同調プロトコール, 時間生物学辞典, 116-117, 2008, 朝倉書店.
180. 内山真, 126 睡眠薬とリズム, 時間生物学辞典, 310-311, 2008, 朝倉書店.
181. 内山真, 栗山健一: 時間生物学, 気分障害, 253-260, 2008, 医学書院.
182. 内山真: 睡眠障害: 生物学的背景を中

- 心に,精神医学対話, 373-392, 2008, 弘文堂.
183. 内山真, 第23回 生活習慣病指導専門職セミナー「不眠症への対応」-生活指導と薬物療法-, けんこうぶんか 37: 2-13, 2008, (財)日本健康文化振興会.
184. 内山真, 脳を守る, 脳を知る・創る・守る・育む 10, 93-124, 2008, 株式会社クバプロ.
185. 内山真: 痛みと睡眠. ペインクリニック 5: 626-633, 2009.
186. 亀井雄一, 内山真: 光療法. 医療従事者のための補完・代替医療: 328-334, 2009.
187. 内山真, 金野倫子: 高齢者のレム睡眠行動障害. 総合病院精神医学 1: 24-31, 2009.
188. 金野倫子, 内山真: Restless legs syndrome の治療. BRAIN and NERVE 5: 549-557, 2009.
189. 内山真: 睡眠薬の効用と限界. 最新精神医学 5: 449-458, 2009.
190. 内山真: 睡眠障害. 実験 治療 695: 46-51, 2009.
191. 内山真: 不眠. 高齢者診療マニュアル 138(2): 114-115, 2009.
192. 内山真: 睡眠薬. 治療薬 イラストレイテッド 改訂版: 245-249, 2009
193. 内山真: うつ病の時間生物学. 時間生物学 2: 26-32, 2009.
194. 内山真: 不眠とうつ病における疫学から臨床を見直す. PSYCHIATRIST 2009 13: 20-28, 2009.
195. 内山真: ナルコレプシー. 健康教室 15: 76-79, 2009.
196. 内山真: せん妄の薬物療法. 臨床精神薬理ハンドブック 第2版: 399-412, 2009.
197. 金野倫子, 内山真: 高齢者のうつ病の電気けいれん療法. 老年医学 Geriatric Medicine 11: 1417-1475, 2009.
198. 内山真: 睡眠障害の現状と睡眠薬の使用状況. ねむりと医療 2: 1-7, 2009.
199. 内山真: 睡眠障害における工夫. 精神科 6: 552-557, 2009.
200. 内山真: 老年期の睡眠障害. 老年精神医学雑誌 11: 1242-1249, 2009.
201. 内山真: 概日リズム睡眠障害. 睡眠学: 518-530, 2009.
202. 高橋栄, 小島卓也, 鈴木正泰, 松島英介, 内山真: 統合失調症の endophenotype としての探索眼球運動. 精神神経学雑誌 12: 1469-1478, 2009.
203. Echizenya M, Mishima K, Satoh K, Kusanagi H, Ohkubo T, Shimizu T: Dissociation between objective psychomotor impairment and subjective sleepiness after diazepam administration in the aged people. Hum psychopharmacol Clin Exp 22:365-372, 2007.
204. Ito SU, Kanbayashi T, Takemura T, Kondo H, Inomata S, Szilagyi G, Shimizu T, Nishino S: Acute effects of zolpidem on daytime alertness, psychomotor and physical performance. Neurosci Res 59:309-313, 2007.
205. Inoue K, Itoh K, Yoshida K, Higuchi H, Kamata M, Takahashi H, Shimizu T, Suzuki T: No association of the

- G1287A polymorphism in the norepinephrine transporter gene and susceptibility to major depressive disorder in a Japanese population. *Biol Pharm Bull* 30:1996-1998, 2007.
206. Naito S, Sato K, Yoshida K, Higuchi H, Takahashi H, Kamata M, Ito K, Ohkubo T, Shimizu T: Gender differences in the clinical effects of fluvoxamine and milnacipran in Japanese major depressive patients. *Psychiatry Clin Neurosci* 61:421-427, 2007.
207. Abe M, Kanbayashi T, Kondo H, Saito Y, Aizawa R, Nagata K, Takemura T, Suzuki A, Shimizu T: Change of the heart rate variability components in stroke patients when falling asleep. *Sleep and Biological Rhythms* 5:50-54, 2007.
208. Kusanagi H, Hida A, Satoh K, Echizenya M, Shimizu T, Pendergast JS, Yamazaki S, Mishima K: Expression profiles of 10 circadian clock genes in human peripheral blood mononuclear cells. *Neurosci Res* 61:136-142, 2008.
209. Aizawa R, Sunahara H, Kume S, Tsuchiya H, Adachi T, Kanbayashi T, Shimizu T: Status of narcolepsy-related information available on the Internet in Japan and its effective use. *Sleep and Biological Rhythms* 6:201-207, 2008.
210. Kanbayashi T, Kodama T, Kond H, Satoh S, Inoue Y, Chiba S, Shimizu T, Nishino S: CSF histamine contents in narcolepsy, idiopathic hypersomnia and obstructive sleep apnea syndrome. *SLEEP* 32:181-187, 2009.
211. Echizenya M, Iwaki S, Suda H, Shimizu T: Paradoxical reactions to hypnotic agents in adolescents with free-running disorder. *Psychiatry Clin Neurosci* 63:428, 2009.
212. Asai H, Hirano M, Furiya Y, Udaka F, Morikawa M, Kanbayashi T, Shimizu T, Ueno S: Cerebrospinal fluid-orexin levels and sleep attacks in four patients with Parkinson's disease. *Clin Neurol Neurosurg* 111:341-344, 2009.
213. Kanbayashi T, Shimohata T, Nakashima I, Yaguchi H, Yabe I, Nishizawa M, Shimizu T, Nishino S: Symptomatic narcolepsy in patients with neuromyelitis optica and multiple sclerosis: new neurochemical and immunological implications. *Arch Neurol* 66:1563-1566, 2009.
214. 石川博康, 徳永純, 森朱音, 菅原純哉, 下村辰雄, 清水徹男: 心嚢液貯留と脳性ナトリウム利尿ペプチド高値を伴った神経性無食欲症の1症例. *精神医学* 49:539-541, 2007.
215. 武村史, 神林崇, 井上雄一, 内村直尚, 伊藤洋, 内山真, 武村尊生, 清水徹男: 不眠症の治療による日中のQOLの改善 DAY-QOL study. *治療* 89:2376-2380, 2007.
216. 清水徹男: 睡眠障害と抑うつ. *クリニカ* 34:295-298, 2007.
217. 清水徹男: うつ病と睡眠障害. *精神医学* 49:471-477, 2007.
218. 清水徹男: 不眠とうつ病. *睡眠医療*